

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570801187		
法人名	有限会社 岩国メディカルサポート		
事業所名	グループホーム かえで		
所在地	山口県岩国市南岩国町四丁目59番5－1号		
自己評価作成日	平成 22年 12月 15日	評価結果市町受理日	平成23年6月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年2月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長寿を喜ぶだけでなく、ご入居者様一人ひとりを尊重し、喜びや満足笑顔のたくさんある生活を支援しています。 (考え方) 「認知症」に対する考え方は、「個性」と同じと考えています。又は、家族の思い(愛)が試される機会。当人には試験又はご褒美と考えています。「一期一会」が何度もあるなんて、羨ましいと思いませんか？「認知症」の方は、「不安感・孤独感・疎外感」の中で常に葛藤しており、「安心ができる環境(人・物・場所)」と、当人を必要(役割)とする」だけで、穏やかでその人らしい生活が送れると考えています。 (接し方) まずは、その人の「性格・習慣・生活歴・趣味」を良く知る。「お客様」扱いせず、「家族」として接します。家事もして頂きますし、感情(喜怒哀楽)も出して接しています。家族の一員としてももちろんケンカ(口論)もします(根のあるケンカはしません)。ケンカが終わると普通に話しますし、大笑いもします。人間ですから、笑いでだけ和谐かに生活するのは不自然ですし、「喜怒哀楽」の感情を出す事で、脳を刺激できるように工夫もしています。 (体制) 管理者1名(介護支援専門員で専従、計画作成担当者・介護従事者も兼務)、計画作成担当者1名(介護従事者も兼務)、介護従事者20(内、常勤12名〔内2名は兼務〕・非常勤8名)、看護職員2名(介護従事者と兼務1名、提携病院より派遣1名)ほぼ月1回の職員会議(内部研修も含み)、積極的な外部研修参加を実施。当施設の他部署の専門職員(看護師・理学療法士・介護支援専門員等)との情報交換を密にし、様々な専門的見地からの意見も取り入れています。 (交流) ・ご家族の方々は、面会時やお電話お手紙等により情報交換に努めています。・地域の方々とは、2ヶ月に1回の運営推進会議の実施や自治会活動(現在は職員のみ参加、今後入居者の方々も参加検討中)への参加。当施設の行事(夏祭り等)への参加呼び掛けも行なっています。・毎月様々なボランティアの方々の訪問(お話し会・音楽療法・作業療法等)により、楽しめています。 (特徴) ・食にこだわり、国産の物を提供しています。このたび「地産地消モデル施設」としての認定をいただきました。・社長(医師)宅から徒歩3分圏内にある為、急変時の対応に迅速に対応できます。・本人、ご家族が“看取り”をご希望されれば、“看取り”も行ないます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎朝、管理者、事務長、主任、職員が共に朝礼を30分以上行い、その日のサービス状況の確認や利用者の情報把握、その他運営に関する提案等が行われ、サービスや運営に関してきめ細かな話し合いをして、職員間で共通理解された上で、変化への即時対応が行われています。利用者の生活歴、好み、希望、やりたいことなどを聴き、ドライブ、買物、外食に出かけたり、酒や好きな飲み物の希望にも応じるなど、一人ひとりを尊重した対応をされ、利用者が安心して満足な生活が送れるように支援をしております。月2回の専門指導者による音楽療法や手芸、朗読、傾聴など様々なボランティアによる活動や季節の行事、花見、外出などがあり、利用者が生き生きと張り合いや喜びのある日々が過ごせるように支援が行われています。利用者の生活記録表で健康管理、清潔や安全に関するチェックを行い、異常の早期発見や対策が取られています。医師と看護師との医療連携が行われており、週1回以上の往診や変化への即対応、重度化や終末期への指針に沿って対応しておられ、看取りも行われています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「人がいて自分がある その人のために出来ることを」をモットーに家族、地域の方との交流を作りながら、ご入居者様らしさを尊重しています。	地域密着型サービスとしての理念をつくり、朝礼において理念に基づく実践について話し合いを行って共有している。地域との交流を大切にした取り組みを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご入居者様から、買い物や、散歩等の要望があった際は、職員が付き添い、要望に応えるよう努めています。また、自治会でのお祭りや溝掃除など、地域行事にも、積極的に参加しており、春には自治会の御厚意により特別に当グループホームの敷地内に山車を入れて頂き、より近くで祭りを見学できました。	自治会に加入し、自治会の総会や行事に参加している。事業所の避難訓練や防災研修、夏祭り等には地域からの参加もあり、事業所自体が地域の一員として交流している。地区のお祭りや近隣店舗での買い物、散歩は日常的に行っており、顔見知りの関係がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月一回Drによる医療や認知症に纏わる講演会が院内であり、地域の人々が参加しています。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	定期的に会議を全職員で行っており、昨年の評価を踏まえた上で、改善点などを挙げ、質の向上に取り組んでいます。また、具体的には、話し合いで決まった重要事項が抜けないようにチェック表を増やしてみたり、記録の見直しをしてより良い介護を目指しています。	運営者、管理者、職員ともに評価の意義を理解して、自己評価は、職員全員で項目を確認しながら実施している。自己評価の気づきを大切にし、チェック表の改善など具体的な改善に取り組んでいる。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、毎回、ご入居者様とその家族他、地域住民、地域包括センターや行政の職員の方に参加して頂いており、ご入居者様の活動内容に付いての件で、ご提案頂くこともありますが、速やかに実現致しております。また、外部評価の項目内容について、運営推進会議において議題として挙げ、広く意見を頂いております。	家族や地域代表4名、地域包括支援センター、警察や消防等関係部署の職員などのメンバーで、2ヶ月に1回実施している。事業所便りの配布や事業所の行事や暮らしぶりをビデオで紹介し、意見交換している。提言や意見をサービスに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にご参加いただいております。また、行政が開催している研修等に積極的に参加し、その都度職員対象の報告会を開き、援助の向上に取り組んでいます。また、地域包括支援センターの職員とも蜜に連絡を取り、ご利用者様の生活の安全に取り組んでおります。	市内の事業所で構成している地域密着型サービス連絡協議会で市からの情報を共有している。個別の事例や懸案事項はその都度市の関係課と連絡をとり、指導助言を得るなど、協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利擁護や身体拘束等のマニュアルを作成し、勉強会を開いており、職員全員理解しています。出入口は鍵をかけず自由に生活していただけるようにしている。職員が気づかず外出するケースも考えられるため、そのため安全対策で対人センサーを設置しています。また、全館セキュリティシステムで無人部分の適切な見守りを行っています。	身体拘束マニュアルがあり、研修会等で職員は正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠もしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法についてのマニュアルを作成し、グループホーム会議などで、虐待についての知識を深めています。また、虐待を発見した際はマニュアルに従い適切に対応するよう徹底しています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業・成年後見人についての勉強会を全職員対象に行っており、皆、概要を理解しています。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書に沿って解りやすくご利用者とその家族他に説明を行っており、パンフレットや実費料金表などを提示して分かりやすく説明しています。解約時にも理解、納得を図るよう心がけています。また、契約の解除の場合には、退居後に入所となる施設との橋渡しなど、様々な面で協力と説明をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご入居者様の表情をみて職員から積極的にその人の思い、不満を聞き出すよう心がけています。また、ご入居者様は、そのご家族他の方に自由に電話を掛けることが出来る環境にあり、自由に外部とのコミュニケーションを取られています。	相談、苦情の受付体制、処理手続きを定めている。面会時や運営推進会議で家族の意見や要望を聴き、運営に反映させている。利用者からは積極的に思いや不満を聴いて対応している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼または申し送りにて意見交換を行ったり、GH会議で質疑応答を行い、援助に活かしています。	役職員も参加の朝礼や月1回の全体会議で職員の意見や提案を聴き、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々人の努力・実績を評価し、少ない介護給付費の中から、最大限職員には給与で還元しています。また、資格取得による昇給、頑張る者への褒章と昇給、毎年の昇給等処遇において適切な評価に努めています。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の一環としての外部研修に参加しています。また、職員の知識の向上や仕事に対する意識を高めるため、他グループホームに1日研修に行っています。	内部研修や外部研修、市内の地域密着型サービス事業所連絡協議会など、研修の機会を確保して、職員が働きながら学べるように取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会、岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会に加盟しており、案内があった場合には、積極的に研修に参加しており、その場において、現場での問題点を改善するため、話し合いをして現場改善に活かしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族のみで見学・申し込みされた際は、後日ご本人様が現在生活している場に行き、現在抱えている悩みや、今後のどのような生活を望んでいるのか、ご本人様の気持ちを理解・把握するよう努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、申し込みをされた際は、ご家族の抱えている不安、要望を詳しく聞き、ご家族から見たご本人の今おかれている状態を把握し、今後について、ご家族と同じ目線で話をしています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一概にグループホームという方向性のみではなく、他のサービスを含めて総合的に考え、ご提案しています。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービス利用前に、お食事を当グループホームで食べていただき、他者との交流を図る機会を設けています。職員は他者との対話の仲立ちの手伝いをしながら馴染んでいただけるよう努力しています。過去的生活歴に合わせて、馴染めるよう努めています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際は、各ご入居者様の様子を報告したり、ご家族と世間話をしたりと、家族の方と良好な関係が築けていると思います。また、家族の方の悩みや思いについても、聞かせていただき、ご家族と同じ立場に立って一緒に解決策を考えています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係や思い出を維持するために、ご入居者様・ご家族の意見を取り入れ外出・外泊の実施をしています。	古くから交流のあった人の面会やお見舞い、行きつけのお店での買い物等、馴染みの人や場との関係が続けられるよう支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・体操・掃除・洗濯の手伝い等共に過ごす機会作りを多く設けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方に面会に来ていただき、ご入居者様・職員と以前と変わらない関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様との日々の関わりの中からご入居者様の気持ちや、思いを把握するよう努めており、居室担当の職員が中心となり、アセスメントをとった上で、ケアプランに活かしています。	ともに暮らす中で、本人から思いを聞いたり、汲み取るなどして把握に努めている。困難な場合は本人本意に対応している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に聞いた生活歴や歴史、生きがいなど記録し職員が把握、共有できるよう保管している。また、親戚や近隣の友人など面会に来られた際は、ご入居者様との関係や、昔の話を聞かせていただくと同時に、面会に来られた方とのコミュニケーションを図っています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、介護記録用紙に記録している。申し送りで担当職員が他の職員に伝達している。また、公休の職員は出勤した際は、介護記録用紙に目を通し、全職員が把握できるよう、徹底しています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご入居者様とのコミュニケーションを図り、要望を聞いた上でご家族に相談するように努め、ご入居者様の気持ちや、要望を最大限活かせるよう、作成しています。また、ケアプランを介護記録のファイルにはせており職員はいつもの確認ができるようにしています。	毎月カンファレンスを実施し、2ヵ月毎のモニタリングで経過を見ながら、6ヶ月毎に介護計画を見直し、関係者の意見や希望を採り入れた介護計画を作成している。状況に変化が生じた時は、その都度見直しを行い、状況に応じた介護計画を作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子をケアプランに沿って個別に介護記録用紙に記録しており、記録を基にケアプランの見直しを行なっている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様の買い物や通院をするのが困難なご家族に代わって職員が付き添いをしていいます。また、ご要望があれば入退院時の付き添いもしています。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人やご家族に聞いた生活歴や歴史、生きがいなど記録し職員が把握、共有できるよう保管している。また、親戚や近隣の友人など面会に来られた際は、ご入居者様との関係や、昔の話を聞かせていただくと同時に、面会に来られた方とのコミュニケーションを図っています。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週最低1回以上の医師による往診、また細かな変化にも日々医師と相談をしながら最適な治療が受けられるよう支援しています。また、歯科医等往診にも来ていただけますので、調子が悪く受診へ行くことが困難な場合でも対応いたしております。	協力医療機関をかかりつけ医とし、週1回以上の往診や利用者の状態の悪化への対応など適切な医療が受けられるように支援している。他科受診の支援や歯科医の往診もある。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報交換をしながら、受診や治療計画をたて、日常生活を自分らしく送れるように支援しています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院施設の地域医療連携室とコミュニケーションをとり、情報交換をする。直接、医師・看護師と話し、利用者の意思を尊重するように努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	週最低1回の看護師によるご入居者様の状態の確認と、週最低1回以上(状態に応じて適宜往診があります。)の医師による往診により、重度や終末期の方のより良い暮らしのために職員と連携し支援しております。また最近では、ほぼ毎日看護師が出勤しており、常時医師と連絡が取れるようにしています。	重度化や終末期のあり方についての指針があり、終末期に向けた家族への気持ちの調査を行ったうえで、本人や家族の希望にそった対応をしている。看取りも行なっている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止についての、マニュアルを作成し、事故防止策をについての会議を開き、徹底している。また、事故、ヒヤリはつがあった際には、書類を作成し、会議にて予防策を検討し、対策を練っています。	事故防止マニュアルをがあり、事故・ヒヤリはつと報告書に記録し、対応策を検討して、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。初期対応や応急手当の訓練を行い、全職員で実践力を身につけている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方に参加を呼びかけ、避難訓練を毎年定期的に行なっています。また、消防署の方を招いて、消火器の正しい使い方や、テントを張り無害の煙を焚いてご入居者様を非難誘導するなど、より実践に近い形で訓練を行なっています。もしもの時に備え、非常用の備品(防寒具・非常食・飲料水)を非難通路に準備している。	地域の人日とに参加を呼びかけ、避難訓練を毎年定期的の実施している。消防署の協力を得て、消火器の使い方、無害煙を焚いて、利用者と一緒に避難、誘導等の訓練を実施している。災害に備えて非常用品を備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護法・秘密保持・プライバシーに関しての勉強会を開いており、一人ひとりの自尊心を傷付けない言葉遣いや対応し、記録等も慎重に取り扱っています。	個人情報保護法やプライバシーに関する勉強会を通して、職員は正しく理解しており、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応をしている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合わせ、コミュニケーションを図り、その方の思いを引き出すような声掛けに努めている。また、言語での意思疎通が困難な方には表情や様子を素早く読み取り、ジェスチャーなど全身でのコミュニケーションを図っており、職員は常に待つという姿勢で自立支援を促しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、一人ひとりの生活パターンを大切に、希望に添って支援しています。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回程度訪問の理容を支援している。夏祭りのときには希望者は浴衣を着、化粧をしたり、外出の際のおしゃれ等支援しています。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなご入所者様も多く、食事の準備を手伝ってくれる方が多い。食事時の雰囲気も良く、好き嫌いにも対応し、体調が優れないとき等希望があればお粥など、臨機応変に対応している。また、ご入居者様、職員と一緒に準備、食事、片付けをして、さらに、コミュニケーションを円滑に図り、楽しみを増やすよう支援しています。	主菜は厨房で調理しているが、副菜や汁物、主食は事業所内で調理し、利用者も調理や盛り付け、後片付けなどできることを一緒にしている。職員も共に食卓を囲みながら、食事の時間を楽しめるよう支援している。希望に応じ飲酒や刺身等生ものも提供している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養バランスを考えています。また、水分量が職員全員に把握できるよう、水分摂チェック表を作成しています。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの力に合わせ自立支援を促す声かけをしている。口腔ケア、義歯の清掃、消毒についてはケアプラン生活チェック表にチェックしている。また、天気の良い日は、歯ブラシ、コップを日光消毒しています。また、週1回歯科衛生士の方が来られ、口腔内のチェックと職員への指導を行っています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自尊心を傷つけることなく、定期的にさりげない声かけやトイレ誘導をしています。現在、常時オムツをしている利用者はいない。トイレにはウォシュレット・手すりがついており、車椅子用トイレには背もたれ、足置きを備えています。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、声かけや誘導で、トイレでの排泄や自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防関しての会議を開き、個別にマニュアルを作成しており、日々の排泄状況を、朝礼や申し送りにて報告している。また、便秘対策としては、散歩、入浴、水分・食物繊維の摂取、体操、レクリエーションなど積極的に行なっています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	お風呂は毎日入ることができ、時間も希望に添ってその都度対応しています。また、入浴を拒否されるご入居者様には、できるだけ入浴していただけるよう声かけを工夫しています。	毎日入浴が可能で、時間も希望に添って、いつでも入浴できる様にその都度対応し、入浴が楽しめるように支援している。入浴をしたくない利用者には言葉かけや対応を工夫し、一人ひとりに合わせた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	外出後や、食後はゆっくりするよう声かけ、疲れを溜めないよう休息を促しています。また、利用者一人ひとりの生活習慣を把握して、休息の声掛けをしています。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	当グループホームでは、毎週火曜日に薬剤師が直接薬を持って来所し、説明(目的、用法、用量、副作用)付きの処方箋を基に説明を受けています。その処方箋には薬の写真も記載されており、大変わかりやすい物となっています。また、週1回医師、看護師が来所し、状態の変化などを伝え、職員に適切なアドバイスをしています。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の状態によって役割を作り、めりはりのある毎日が送れるよう支援しています。また、それぞれの方の要望に添えられるよう、外出レクを多く取り入れ気分転換等の支援しています。	掃除、洗濯物たたみ、食事の準備、片付けなど日常生活において利用者が出来ることで、活躍できる場面作りをしている。月2回の音楽療法や各種のボランティア、季節の行事への参加など、利用者が楽しく過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事として行くこともありますが、ご入居者様のその日の希望により、散歩、ドライブ、買い物、外食等支援しています。	花見や行楽などの行事のほか、利用者のその日の希望により、散歩やドライブ、買い物、外食など、戸外に出かけられるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当グループホームでは公衆電話を設置しており、使用される際には、お金が必要な為小銭を所有している方が多い。また、買い物などに行く際は、お会計はなるべくご入居者様が行えるよう援助しています。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	当施設に公衆電話を設置しており、自由に電話を掛けることが出来ます。また季節ごとの手紙(年賀状、暑中見舞い)などもご利用者様に書いてもらうよう、支援しています。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様とのカレンダー作りで季節感をだしています。ホールの横には台所があり、まな板の音や料理の匂いで五感を刺激します。そうすることでコミュニケーションの活性化にもつながります。また馴染みの食器を使用しているご入居者様もおり、楽しく食事をする工夫もしています。花を飾り季節感を出すよう努めています。	共用空間はいずれも不快な感じはなく、使い勝手良く整備されている。居間には小上がりの畳の間もあり、多目的に使われ、ソファ等と共に居場所の確保にもつながっている。季節を感じる飾り付けや花が飾られ、対面式の厨房からは生活感が感じられる。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV、テーブル、ソファがホールにあり、利用者がTVを観たり、本を読んだり、談笑したりと気のあったご入居者同士で思い思いに過ごしています。また、玄関ホールやホール内の小上がりにソファやコタツが設置されており、独りになれる落ち着いた居場所づくりを工夫しています。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様が居心地よく過ごして頂くために、本人や家族と相談しながら使い慣れたものや好みのものを使用しています。例としては、タンス、化粧台や仏壇などがあります。	ベッド、タンス、机、テレビ、整理棚、鏡、仏壇など、利用者の使い慣れた物や、好みの物を持ち込み、小物や写真、花、作品などを飾り、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉にトイレと記載した紙が貼ってあり、混乱や失敗を防いでいます。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム かえで

作成日：平成 23年 6月 25日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	I	地域も高齢化が進み、ご相談を受けたり、地域の行事において協同で作業に当たるといったことも増えてきました。今まで以上により良く地域と連携をとっていくにはどうすれば良いのかを考えていきたいと思います。	運営推進会議へ地域から更なるご参画をお願いすべく地域の寄り合いや会合に参加をしたり、地域からのご相談対応をより密にし、介護保険サービス利用の説明や包括支援センター等行政機関への円滑な連携を推進します。	職員の地域参加意識を高めるための研修を実施し、運営推進会議をはじめとする諸会合に今まで以上に一丸となって取り組むようにします。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。